

左 京 医 報

2025— 3

LIX—11 (707)



『ニュージーランド旅行 ～マウントクック～』

葵1班 藤 原 正 隆 先生



目 次

2025年3月号(707号) 題字 平 澤 興 先生

表紙写真・文章	葵1班 藤 原 正 隆	1
理 事 会 記 録		3
緑 壽 会	上 原 春 男	11
令和6年度左京三師会 報告		
令和6年度左京三師会に参加して		
左京医師会 副会長(地域医療担当)	松 下 匡 孝	13
三師会ご報告	京都市左京歯科医師会 会長 水 野 誠	14
令和6年度左京三師会に参加して	左京薬剤師会 会長 藤 田 洋 司	15
令和7年新年会 報告	平 憲 二	17
左京医師会学術講演 要旨		
コモンな皮膚疾患の診断と治療		
京都府立医科大学 北部キャンパス長	加 藤 則 人 先生	21
追 悼		
故 田代 研先生 ご略歴		23
田代 研先生を偲んで	稲 葉 正	24
左京医師会 講演会等の予定		26
随 筆		
「第二疏水の水音が奏でる続・幕末維新の京都交響曲」		
第二話「琵琶湖と淀川を守る瀬田川洗堰と砂防の父デ・レーケ」(その1)	山 下 敬 司	27
「七仏七界」 西国四十九薬師霊場巡りの旅		
その六 前編「光界」	松 下 匡 孝	32
編 集 後 記	兵 庫 美 砂 子	36

左京医報 表紙募集!!

会員の皆様の写真や絵画などを募集しています。
左京医師会事務局までご連絡ください。

表紙のことば

『ニュージーランド旅行 ～マウントクック～』

葵1班 藤 原 正 隆

年末年始の休暇を利用して、家内とニュージーランドへ行って来ました。写真はマウントクックにあるハーミテージホテル近くの散策路から、ニュージーランドの最高峰、アオラキ山(マウントクック)を捉えたものです。前日までは小雨模様で山頂付近は厚い雲に覆われていましたが、この日はよく晴れました。

【撮影機材】Nikon Z8, NIKKOR Z 24-120mm f/4 S, FL 57mm, f/8, SS 1/320, ISO 100。

一般社団法人左京医師会令和6年度第17回定例理事会

日 時：令和7年1月10日（金）

場 所：国立京都国際会館

出席者：塩見・松下・十倉・藤田・三嶋・赤木（Web 参加）・西村（Web 参加）・細谷
山下・青木・原山・佐藤・早野・久保田・児玉・平竹・松本・松本
八田（Web 参加）・伊地智監事・米田監事

I. 報 告

1. 会長報告

- 1) 12月13日（金） 松宮 徹先生（修学院第一班・北白川 とおるクリニック）
面談 於：国立京都国際会館
- 2) 12月14日（土） 令和6年度京都市左京歯科医師会忘年会
於：ホテルオークラ京都
- 3) 令和7年度京都府立学校産業医の推薦について
洛北高校 藤原正隆先生
北稜高校 丹羽 勇先生
- 4) 令和7年度京都府立学校学校医について
洛北高校 藤原正隆先生 石川光紀先生
北稜高校 丹羽 勇先生
洛北附属中学校 藤原正隆先生（内科）
柊木雅晴先生（眼科） 児嶋圭介先生（耳鼻咽喉科）
- 5) 令和7年度区役所（支所）保健福祉センター生活福祉課嘱託医の推薦について
田中淳夫先生
- 6) その他
来訪、会合、他
- 1) 1月11日（土） 第4回京都府医師会産業医部会幹事会（ハイブリッド開催）
14時10分 於：京都府医師会館
- 2) 1月18日（土） 京都府医師会との懇談会
15時 於：ウェスティン都ホテル京都
- 3) 1月18日（土） 新年会 16時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 4) 1月25日（土） 参与会 16時 於：ウェスティン都ホテル京都
- 5) 1月30日（木） 京都府保険医協会第208回定時代議員会（ハイブリッド開催）
14時 於：京都経済センター
- 6) 2月12日（水） 京都市域地域医療構想調整会議（4ブロック会議と本体会議）
（Web 開催）

- 15時30分
- 7) 2月13日(木) 京都第二赤十字病院 地域医療支援病院推進委員会
15時30分 於：京都第二赤十字病院
- 8) 2月15日(土) 保険医協会との地区懇談会
14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 9) 2月27日(木) 令和6年度後期運営協議会(京都上地域産業保健センター)
14時 於：京都府医師会館
- 10) その他

2. 庶務

- 1) 1月18日(土) 京都府医師会との懇談会
15時 於：ウェスティン都ホテル京都
- 2) 1月18日(土) 新年会 16時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 3) 1月22日(水) 第8回庶務担当理事連絡協議会(ハイブリッド開催)
14時30分 於：京都府医師会館
- 4) 2月15日(土) 保険医協会との地区懇談会
14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 5) その他

3. 地域医療

- 1) 12月14日(土) 高野地域包括支援センターとの交流会
出席 医師；4名 薬局・包括・介護関係；17名
於：高野中学校
- 2) 12月17日(火) 認知症にやさしい地域づくり部会
赤木美砂先生 於：左京区役所
- 3) 12月18日(水) 令和6年度第2回認知症総合支援事業アドバイザリーボード(ハイブリッド開催)
西村伊三男先生 於：京都府医師会館
- 4) 12月18日(水) 京都大学医学部附属病院災害対策訓練見学
塩見聡史先生、松下匡孝先生、市田哲郎先生
於：京都大学医学部附属病院
- 5) 1月8日(水) 左京区事業者連絡協議会代表者会(Web開催)
- 6) 1月11日(土) 区民公開講座
「脳卒中にならない、手遅れにならない、脳卒中にまけない」
京都大学医学部附属病院
脳卒中療養支援センター・もやもや病支援センター
センター長 宮本 享先生

「京のぶぶ漬け、なめたらあきまへん」

～コミュニケーションの真髓がここにある、ただし…～

京都大学大学院人間・環境学研究科

講師 佐藤泰子先生

14時～16時30分 於：京都大学百周年時計台記念館

- 7) 1月31日(金) 令和6年度京都市糖尿病重症化予防地域戦略会議(ハイブリッド開催)

原山拓也先生

14時30分

於：京都府医師会館

- 8) 2月6日(木) 第33回ワンコイン学習会(ハイブリッド開催)

「その認知症、ほんとうに認知症？」

～「治る」認知症について考える～

来住知美先生

18時～19時30分

於：左京区役所

- 9) 京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター

- 10) その他

4. 情報広報

- 1) 2月3日(月) 情報広報委員会(Web開催)

- 2) 医報

- 3) その他

5. 学 術

- 1) 2月15日(土) 「漢方療法を通して再考する月経前症候群へのアプローチ」

京都大学大学院医学研究科 婦人科学産科学

助教 江川美保先生

16時

於：ウェスティン都ホテル京都

- 2) 3月15日(土) 「睡眠時無呼吸関連(仮)」

京都大学大学院医学研究科 呼吸管理睡眠制御学講座

特定准教授 佐藤 晋先生

16時

於：ウェスティン都ホテル京都

- 3) 4月19日(土) 「神経内科関連(仮)」

京都大学大学院医学研究科

医学専攻脳病態生理学講座臨床神経学

講師 眞木崇州先生

16時

於：ウェスティン都ホテル京都

6. 社 保

- 1) 3月15日(土) 社保講演会
「未定」

7. 福 祉

8. 税 務

9. 会 計

10. そ の 他

II. 議 事

- 1) 松宮 徹先生(修学院第一班・A・北白川 とおるクリニック)
入会申込書・新規開設申込書について ⇒承認
- 2) 川勝秀一先生(葵2班・A・川勝小児科内科医院) 休止届について ⇒承認
- 3) 中村直美先生(岩倉南班・A・なかむらなおみ皮膚科クリニック)
入会申込書・新規開設申込書について ⇒承認
- 4) 医療法人財団医恵会 SDK スキンクリニック(新洞錦林班・旧聖護院皮膚科クリニック・祖慶美希先生) 診療時間変更届について
班回覧 新洞錦林班、第三錦林班、第四錦林班、養正2班 意見なし。 ⇒承認
- 5) 出初式について ⇒承認
- 6) 令和6年度検診委員会・地域連携委員会報告会・班長交代会について ⇒承認
- 7) その他

次回理事会：1月24日(金)

文責：松木、佐藤

一般社団法人左京医師会令和6年度第18回定例理事会

日 時：令和7年1月24日（金）

場 所：国立京都国際会館

出席者：塩見・松下・十倉・藤田・三嶋・赤木（Web参加）・西村・細谷・山下・青木
原山（Web参加）・佐藤・早野・久保田・兄玉・松本・松木・八田・伊地智監事
米田監事

I. 報 告

1. 会長報告

- 1) 1月11日（土） 第4回京都府医師会産業医部会幹事会（ハイブリッド開催）

於：京都府医師会館

- 2) 1月18日（土） 京都府医師会との懇談会

於：ウェスティン都ホテル京都

- 3) 1月18日（土） 新年会

於：ウェスティン都ホテル京都

- 4) 2月1日（火）～2月7日（月） 京都府医師会選挙人名簿縦覧

- 5) その他

来訪、会合、他

- 1) 1月25日（土） 参与会

16時 於：ウェスティン都ホテル京都

- 2) 1月30日（木） 京都府保険医協会第208回定時代議員会（ハイブリッド開催）

14時 於：京都経済センター

- 3) 2月12日（水） 京都市域地域医療構想調整会議（4ブロック会議と本体会議）
（Web開催）

15時30分

- 4) 2月13日（木） 京都第二赤十字病院 地域医療支援病院推進委員会

15時30分 於：京都第二赤十字病院

- 5) 2月15日（土） 保険医協会との地区懇談会

14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都

- 6) 2月27日（木） 令和6年度後期運営協議会（京都上地域産業保健センター）

14時 於：京都府医師会館

- 7) その他

2. 庶 務

- 1) 1月18日（土） 京都府医師会との懇談会

京都府医師会；9名 会員出席；27名

於：ウェスティン都ホテル京都

- 2) 1月18日（土） 新年会

来賓；8名 会員；61名

- 於：ウェスティン都ホテル京都
- 3) 1月22日(水) 第8回庶務担当理事連絡協議会(ハイブリッド開催)
- 於：京都府医師会館
- 4) 2月15日(土) 保険医協会との地区懇談会
- 14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 5) 3月29日(土) 新旧班長交代会 17時 於：国立京都国際会館
- 6) その他

3. 地域医療

- 1) 1月11日(土) 区民公開講座
- 参加者；126名 於：京都大学百周年時計台記念館
- 2) 1月17日(金) 認知症部会(ハイブリッド開催)
- 出席；17名 於：国立京都国際会館
- 3) 1月17日(金) 在宅医療部会(ハイブリッド開催)
- 出席；10名 於：国立京都国際会館
- 4) 1月31日(金) 令和6年度京都市糖尿病重症化予防地域戦略会議(ハイブリッド開催)
- 原山拓也先生 14時30分 於：京都府医師会館
- 5) 2月6日(木) 第33回ワンコイン学習会(ハイブリッド開催)
- 「その認知症、ほんとうに認知症？」
- ～「治る」認知症について考える～
- 来住知美先生 18時～19時30分 於：左京区役所
- 6) 2月14日(金) 地区特定健診等担当理事連絡協議会(ハイブリッド開催)
- 細谷泰久先生 14時 於：京都府医師会館
- 7) 2月17日(月) 左京区地域ケア連絡協議会・運営委員会
- 塩見聡史先生、松下匡孝先生、原山拓也先生
- 13時30分 於：左京区役所
- 8) 2月22日(土) BCP講習会
- 「事業継続計画(BCP)の基礎知識と作成実践まで
- ～自然災害時の初動対応について～」
- 東京海上日動火災保険株式会社 京都本部京都開発課
- 主任 森脇航大氏
- 14時30分 於：国立京都国際会館
- 9) 3月29日(土) 令和6年度検診委員会・地域連携委員会報告会
- 16時 於：国立京都国際会館
- 10) 京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター
- 11) その他

4. 情報広報

- 1) 2月3日(月) 情報広報委員会(Web開催)
- 2) 医報
- 3) その他

5. 学 術

- 1) 2月15日(土) 「漢方療法を通して再考する月経前症候群へのアプローチ」
京都大学大学院医学研究科 婦人科学産科学
助教 江川美保先生
16時 於：ウェスティン都ホテル京都
- 2) 3月15日(土) 「睡眠呼吸障害と生活習慣病」
京都大学大学院医学研究科 呼吸管理睡眠制御学講座
特定准教授 佐藤 晋先生
16時 於：ウェスティン都ホテル京都
- 3) 4月19日(土) 「脳卒中診療における急性期から慢性期のマネジメントと連携」
京都大学大学院医学研究科
医学専攻脳病態生理学講座臨床神経学
講師 眞木崇州先生
16時 於：ウェスティン都ホテル京都
- 4) 5月17日(土) 「患者と共に創る慢性疼痛治療の新たな道」
京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 麻酔科
助教 加藤果林先生
16時 於：ウェスティン都ホテル京都

6. 社 保

- 1) 3月15日(土) 社保講演会
「未定」

7. 福 祉

8. 税 務

9. 会 計

10. そ の 他

Ⅱ．議 事

- 1) 上原医院（養正1班・上原春男先生）診療時間変更届について ⇒承認
- 2) 垣内医院（別班・垣内 孟先生）診療時間変更届につて ⇒承認
- 3) 田中恭子先生（養正1班・A・たなかクリニック）退会届について ⇒承認
- 4) 田中忠蔵先生（養正1班・B・たなかクリニック）退会届について ⇒承認
- 5) 区役所における肺がん検診時のCOPDアンケート結果による受診勧奨周知について ⇒承認
- 6) 特別委員会（研修医等の会費に関する委員会）の開催と委員の人選について⇒承認
- 7) その他

次回理事会：2月14日（金）

文責 八田、児玉

個別相談の受付

一般社団法人左京医師会では、大谷会計事務所のご厚意により、税務・経営・資金等に関する無料個別相談を開催しています。公認会計士、税理士が1回30分程度でご相談に応じますので、希望される会員は事務局までお申し出ください。相談曜日は、第2月曜日14時から16時までとなります。

ただし、相談内容に関して左京医師会は一切関与しませんので会員の自己責任でお願いいたします。

一般社団法人左京医師会

緑 寿 会

令和6年9月14日（土）

於：竹茂楼

養正1班 上 原 春 男

コロナ感染症の影響を受け3年間中断していた緑寿会が昨年より再開され、9月14日（土）竹茂楼で本年度の緑寿会が催されました。

出席者は塩見会長はじめ十倉孝臣、赤木美砂、細谷泰久、佐藤尚志の役員の先生5名。

一方緑寿会は、横山幸男、藤田 宗、廣崎彰良、八田一郎、館石捷二、中野義雄、橋本良子、三浦賢佑、佐藤文彦、角谷圭子、松本捷彦（敬称略）の各先生に私上原を加え77歳以上12名の合計17名でした。

竹茂楼ですが元は京懐石美濃吉です。美濃吉は八代将軍吉宗の時代に三条大橋のもと（現在の縄手通り）の一角に腰掛茶屋を開いたのが始まりといわれています。その後、代々当主は「美濃屋吉兵衛」を名乗り、江戸時代後期には京都所司代から許可を受けた川魚生洲八軒のうちの一軒として料理屋を営むようになります。美濃屋吉兵衛が詰まって「美濃吉」と名乗るようになったのは明治になってからのことようです。美濃吉は鴨川沿いにあったこともあって代々川魚料理を扱い、その川魚料理が美濃吉の名物となっていました。その後は気軽に京料理が食べられるような取り組みから平成4年4月「京懐石美濃吉本店竹茂楼」に変名し現在にいたっております。

この日の料理は「先付にはじまり、椀、向付と焼き、水物、甘味」で終了するコースでしたがおいしかったです。

緑寿会ですが、塩見会長のご挨拶、橋本先生の乾杯の音頭後楽しい宴会が始まりました。

「上原君、君いくつになった」、「79です。」「若いなー」が会話の始まりです。一般社会では老齢の79歳もここでは若者です。「あの時はすごかったな」、「あれはもうちょっとみなかったな」「あれは本当に残念だったな」等々、昔話に花が咲き、一方、「何やかんやいってもコンピューターに触れんと医療はできん時代になりましたなー」と嘆き節もでるなど大変楽しい時間をすごしました。

緑寿会施行の努力をして頂きました塩見会長はじめ役員の先生方に深く御礼申し上げます。



令和 6 年度左京三師会に参加して

令和 6 年11月30日（土）
於：京都ブライトンホテル

地域医療担当副会長 松 下 匡 孝

11月30日土曜日、京都ブライトンホテルにて左京歯科医師会主催による左京三師会が行われました。

二部構成で行われ、第一部は足立了平先生（ときわ病院歯科口腔外科／神戸市健康局歯科専門役）による「日常から“非日常を準備する”～震災を通して考える多職種連携の重要性～」と題した講演でした。足立先生は阪神淡路大震災のときに神戸市長田区の病院に勤務されており被災されました。今で言う震災関連死では肺炎により亡くなった方が数多くいて、社会的弱者や老人に多いとのことでした。肺炎の多くは誤嚥性肺炎（嚥下性肺炎）で、避難所での口腔ケアの不備、内服薬不足などによる内科的原疾患の悪化や運動不足が原因となるそうです。足立先生は東日本大震災や能登地震の時にも避難所に駆け付け地元の歯科医師の先生とともに口腔ケアの重要性を説明して回られたそうです。また衝撃的だったのは福祉避難所に収容された要介護状態の方の40％が死亡され、口腔ケアが不十分だった可能性が指摘されています。中越地震では先生が直後に新潟歯科医師会と連携して口腔ケアを奨励したところ8％程度の死亡率になったそうです。どんな内科的な治療よりも口腔ケアを徹底することで救える命をなくさなくても済むのだということ、服薬指導や生活指導による糖尿病や血圧のコントロール、生活不活発の予防が重要で介護士、薬剤師、栄養士そして医科・歯科医師などの多職種連携の重要性を強調されていたことが印象的でした。

講演中に「我々左京医師会は、何ができるのだろう…。」ということが頭の中をぐるぐる回っていました。多職種連携のために何かせねばなりませんね。

第二部は、懇親会となり、食事をいただきながら懇談の会となりました。途中で各会の活動報告がなされ、医師会からは青木信裕理事、歯科医師会からは中村清志副会長、薬剤師会からは藤田洋司会長からご報告をいただきました。

毎年三師会が行われていますが、これからは共同で講演会や勉強会を開催し、より一層の親密なお付き合いができないものかなぁ、と思いました。

三師会ご報告

京都市左京歯科医師会 会長 水 野 誠

平素は、左京歯科医師会の会務運営に際しましてご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

今回の三師会は、左京歯科医師会が主催させていただき、合同協議・研修会をブライトンホテル京都に場所を変え開催させていただきました。また、コロナ禍で中断されていた講演会を、久しぶりに企画いたしました。

去年元旦に能登半島大震災が発生しましたが、震災時の最前線で活躍されている、ときわ病院歯科口腔外科部長の足立了平先生に、震災を通して多職種連携の重要性についてご講演いただきました。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災の6,434人が災害による死亡認定を受け、そのうち直接死は5,507人、残りの927人が関連死。また、能登半島地震では、死者462人中235人が関連死であり（令和6年11月22日）、直接死を超えました。関連死は、阪神・淡路大震災時にはじめて提唱された概念で、災害がなければ助かった可能性があることから「救えた命」とも表現されます。関連死は震災発生3日後から増え続け約2か月間に80%が死亡しています。震災関連死を引き起こす疾患の原因として、①大きなストレス ②常用薬の紛失や変更による服薬コンプライアンスの低下 ③脱水 ④生活不活発病（動かない、フレイル） ⑤低栄養（フレイル、咀嚼・嚥下障害：噛めない・飲めない）などが挙げられます。結果的に高血圧や糖尿病が増加・増悪し、心筋梗塞や脳卒中の増加につながります。阪神・淡路大震災の詳細な調査から、関連死における肺炎の多くは誤嚥性肺炎であると考えられています。水が不足する被災地では、歯や義歯の清掃ができず口腔内細菌の数が増加します。避難所の環境改善や要援護者の福祉避難所への早期移送、薬剤師の常駐による服薬指導、口腔ケア（歯や義歯の清掃）の指導など保健・医療・福祉の連携による支援によって災害時肺炎を減少させることができます。そのためには医科、歯科、薬科が独自で行動するのではなく一体となって連携しながら支援活動を展開することが求められます。

地域医療の根幹は、包括的な支援体制の構築です。三師会の専門分野が一堂に会し、お互いの連携を強化し、情報を共有することは大変重要なことです。

我々は、日々、患者の健康を守るために尽力していますが、今一度、三師会を通じて医療現場における最新の知見や技術、そして我々のつながりを深めることが大切であると、改めて感じております。今後も、より一層のご支援、ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

令和 6 年度左京三師会に参加して

左京薬剤師会 会長 藤 田 洋 司

平素は、左京薬剤師会の会務運営に際しまして、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

先日の三師会研修会・親睦会でもありがとうございました。私が三師会研修会に初めて参加させていただいたのは2018年だったと思います。研修会ではすごく勉強になり親睦会ではざっくばらんにお話しできたことが、すごくいい思い出として残っています。しかしながらコロナという情勢で、集合するようなイベントが難しくなってしまう、昨年度に医師会主催で三師会の情報交換会や親睦会が開催されたときは、やっと一区切りがついたのかと思うことも出来ましたし、主催として開催していただいたことに本当に感謝しています。個人的にはすごく感慨深いものがありました。本当にありがとうございました。

私ごとですが前会長である阪部先生から左京薬剤師会会長という大役を引き継ぎました。左京で薬剤師として活動し11年になります。実家である薬局で働くだけで、殆ど何も分かっていなかった私に、様々な職種の中での振舞い方、連携の仕方など、色々なことを教えて下さったのが阪部先生でした。今、会長として医師会や歯科医師会の先生方、行政や多職種との関係をスムーズに進められていることも、阪部先生が作って下さった土台の上にあると、日に日に強く感じています。

日本は災害の多い国ですが、有事の際は三師会との関係や連携は本当に重要なものだと思います。先般のコロナ禍のような新興感染症が発生した際も、薬剤師の果たせる役割は沢山あると思いますし、医師会の先生方に協力し物事に当たっていく準備を普段からしていくことが大切だと思っています。そうして行政と関わっていくことが区民、市民、府民にとっても重要なことだと思います。また、左京区での三師会や多職種連携は、他の行政区に比べ胸を張れるくらいのレベルにあると感じています。今でも顔と顔の見える関係だけではなく、しっかりとした信頼関係ができていると思います。今後も一層もっと踏み込んだ関係を目指し、左京薬剤師会としても取り組んでいきたいと思っています。

私自身はまだまだ薬剤師歴も浅く、未熟ではありますが、医師会の先生方、歯科医師会の先生方にも沢山教えていただかないといけないことがあることも感じています。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



特別講演講師 足立了平先生



講演全景



懇親会全景



三師会会長と足立先生



令和 7 年新年会 報告

令和 7 年 1 月 18 日（土）

於：ウェスティン都ホテル京都

上高野班 平 憲 二

令和 7 年 1 月 18 日土曜日、ウェスティン都ホテル京都 葵殿にて、左京医師会新年会が開催されました。多くの先生方が集まり、和やかな雰囲気の中での開催となりました。

来賓として、一般社団法人京都府医師会副会長 禹 満様、京都府保険医協会理事長 鈴木 卓様、京都市左京区長 森元正純様、京都市左京区役所保健福祉センター長 松本行代様、京都市左京歯科医師会会長 水野 誠様、左京薬剤師会会長 藤田洋司様、京都市左京消防署副署長 木林久仁之様、左京区民政児童委員会会長 岡本弥一郎様のご来臨をいただきました。



来賓の方々



来賓の方々

塩見聡史会長のご挨拶に続きまして、来賓代表として、一般社団法人京都府医師会副会長 禹 満様より会長 松井道宣様からのご挨拶を代読いただきました。また、京都府保険医協会理事長 鈴木 卓様、京都市左京区長 森元正純様よりそれぞれご挨拶を頂戴しました。

続いて乾杯のご挨拶とご発声が東道仲二郎先生からあり、和やかで賑やかな歓談の時間となりました。



会場全景



東道先生乾杯のご発声

私は、昨年（令和6年）7月に、上高野のクリニックに管理医師として着任いたしました。医師会の催しに参加するのは今回がはじめてということもあり、緊張の中、新年会に参加させていただきましたが、乾杯の前に何人かの先生にお声をかけていただき、リラックスさせていただきました。



歓談の様子

会の中盤には、新入会員の自己紹介の時間があり、私は最初にご挨拶させていただきました。勤務先の説明につづき、せっかくの機会でもありましたので、ライフワークとして取り組んでいる市販薬の問題（オーバードーズや薬剤の使用過多による頭痛[MOH]など）のための活動についても話をさせていただきました。



新入会員の先生方



新入会員の先生方

会の終盤には、テーブル毎にグループに分けられて、クイズ大会が行われました。グループごとに解答し、正解数の一番多いチームに、景品が一人一人手渡されました。私のいたテーブルは、残念ながら優勝は逃しました。



恒例のクイズ



クイズ優勝グループの先生方



塩見会長とじゃんけん



白熱するじゃんけん決勝戦



じゃんけん勝者の先生方



松下副会長 閉会の辞

今年の参加人数は来賓 8 名、会員 61 名、合計 69 名とのことでした。自己紹介させていただいた後には、市販薬の問題について同様に心配をされている先生方から声をかけていただくなど、たいへん貴重な交流の場となりました。来年以降も、多くの先生方が参加され、様々な先生方との交流の場になることを期待いたします。

この度は新年会に参加させていただきまして、ありがとうございました。医師会の活動におきましては、まだまだ知らないことも多い若輩者ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新年会にご参加の新入会員の先生方

班	会員種別	氏名
養徳班	B 会員	東道 公人 先生
上高野班	B 会員	松本 瑞樹 先生
上高野班	A 会員	平 憲二 先生
明徳班	管理者交代 A 会員	崔 炯仁 先生
明徳班	管理者交代 A 会員	守時 通演 先生

(順不同)

コモンな皮膚疾患の診断と治療

京都府立医科大学 北部キャンパス長 加 藤 則 人 先生



皮膚疾患は、病変が目に見え痒みや痛みを伴う頻度が高く、患者や家族などが病変の存在に気づきやすいため、皮膚科に限らず、かかりつけ医が診察する機会が多いと考えます。

一般成人を対象としたある調査では、2人に1人が日常の暮らしの中で痒みを感じることがあると回答しているように、痒みはありふれた自覚症状です。痒みを伴う皮膚疾患は、接触皮膚炎やアトピー性皮膚炎、乾皮症性湿疹などの湿疹・皮膚炎群の疾患やじんましん、蕁麻疹、皮疹のない皮膚掻痒症や、疥癬や白癬症などの感染性皮膚疾患など多岐にわたります。また、長寿化に伴い、皮膚悪性腫瘍を診療する機会も増えていると感じます。

今回は、プライマリケア医に知っていただきたい、コモンな皮膚疾患の診断と治療について概説します。



追悼 故 田代 研 先生 ご略歴



生年月日 昭和30年12月18日

略 歴

1971年 京都市立旭丘中学校卒
1974年 京都市立紫野高等学校卒
1985年 京都府立医科大学卒
京都府立医科大学附属病院
第一内科入職
1988年 田代医院
2017年 北大阪ほうせんか病院入職
2019年 特別養護老人ホーム静原寮入職
2024年 3月20日 逝去

田代 研先生を偲んで

京都北医師会 稲 葉 正

田代先生は昭和60年 京都府立医大を卒業され、当時の第1内科に入局され、循環器科を専攻されました。お父様が循環器を専門とされ、心電図の研究、臨床応用を実現されたから、ご自身もその方面に進まれました。

西陣病院には昭和62年に着任され、私が泌尿器科にいたので、その時がお付き合いの始まりです。臨床では検査に、治療に忙しくされていたのはもちろんですが、彼の人柄は付き合っているうちにだんだんわかってきました。子供のころはスピードスケートをしていて、かなりの実力だったとのことでした。酒が好きで、記憶がなくなるほど飲んだこと、それでも唄を歌い、当時ヒットしていたミュージカル「シカゴ」の物まねをして、人を喜ばせたことが思い出されます。歌はうまく声はよかったです。

話をするときには、目を細めて笑みを浮かべて話すことが多かったです。人物評は切れが良かったですね。

平成元年お父様の医院を継ぐことになって、西陣病院を退職し、北区堀川今宮の医院で開業されました。私も平成4年に、その近くで開業しましたので、家族ぐるみのお付き合いが続きました。賀茂川で桜の花見をしたり、自宅の屋上でバーベキューもして楽しみました。

北医師会の家族旅行で長島温泉の花水木に行ったことがあります。田代先生はお子さんと一緒にアイススケートをしていました。奥様と私の妻はジェットコースターに乗っていました。

北医師会では、当時、法人化することになって、その中心で仕事をしたのが田代先生でした。彼は理事として会計担当でした。一般社団法人とは何かから始まって、定款の作り直し、会計報告書の整備などほとんど彼が行いました。大変な作業だったと思います。

当時から集団健診の収入が減ってきて、財政状態の予測を検討し、数々の提言をされたことを記憶しています。

大学の臨床病理検討会にも世話役として準備が大変だとこぼされたこともありました。忙しかったですね。

平成29年思うことがあったのでしょう。医院を閉じられて、高齢者医療の方向へ転身されました。初めは大阪茨木市のほうせんか（豊泉家）病院に単身で赴任され、療養病床担当医となりました。それが1年半続き、その後、市原の特別養護老人ホームに入職されました。

しばらくして、突然のお電話をいただき、ご自身を上咽頭がんでリンパ節転移があり、物が食べにくいとのことでした。その話には私は言葉を失い、なんと返事をしたものかと、慰めようがありませんでした。奥様のお話では、朝起きてこないで、見に行ったら、亡くなっていたとのことでした。前日まで酒を飲んで話していたのにと。安らかな表情だったと。

田代 研先生 楽しい思い出ありがとうございました。
ご冥福をお祈り申し上げます。

2024年3月20日 ご逝去 享年68歳

左京医師会 講演会等の予定

(令和7年3月～5月)

開催日と場所は変更になる場合があります。
開催時間など詳細が決まりましたら医報などにて告知致します。

◆左京学術講演会

と き 3月15日(土) 16時

ところ ウェスティン都ホテル京都

「睡眠時呼吸障害と生活習慣病」

京都大学大学院医学研究科 呼吸管理睡眠制御学講座

特任准教授 佐藤 晋先生

◆第34回左京医師会認知症研究会

と き 4月19日(土) 14時30分

ところ ウェスティン都ホテル京都

「抗アミロイド治療時代の認知症診療」

京都府立医科大学大学院 医学研究科 脳神経内科学

准教授 笠井高士先生

◆左京学術講演会

と き 4月19日(土) 16時

ところ ウェスティン都ホテル京都

「脳卒中診療における急性期から慢性期のマネジメントと連携」

京都大学大学院医学研究科

医学専攻脳病態生理学講座臨床神経学

講師 眞木崇州先生

◆左京学術講演会

と き 5月17日(土) 16時

ところ ウェスティン都ホテル京都

「患者と共に創る慢性疼痛治療の新たな道」

京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 麻酔科

助教 加藤果林先生



「第二疏水の水音が奏でる続・幕末維新の京都交響曲」

第二話 「琵琶湖と淀川を守る瀬田川洗堰と砂防の父デ・レーケ」(その1)

北白川2班 山下 敬 司

【大日山に込められた「山を削れば祟りがある」との行基の呪縛】

滋賀県にとっての洪水防止のための治水とは瀬田川の流量増加ですが、それをやろうとすると洪水を心配する下流側が反対して暗礁に乗り上げる、ということをいにしえから繰り返してきました。

最も古い瀬田川の改修計画は奈良時代の高僧・行基の大日山の切り崩し構想です。行基は朝廷が仏僧が民衆へ仏教を直接布教することを禁止していた奈良時代に、民衆や豪族など階層を問わず広く人々に仏教を説くとともに、慈善事業や民衆の生活改善のための溜池や架橋などの土木事業を各地で行いました。このため行基は朝廷から度々弾圧や禁圧されますが、その後に朝廷から力量を認められて大僧正となり、聖武天皇の信任を得て東大寺大仏建造の責任者として招聘されました(図7)。



図7：近鉄奈良駅前に鎮座する行基の立像(左側)と行基の監修による東大寺の大仏像(右側、筆者撮影)。行基は東大寺大仏建造の責任者として大仏建造に貢献し、この功績により東大寺の四聖の一人に数えられている。行基の残した遺産とも言える東大寺の大仏は、今も奈良市の重要な観光資源として観光立県の奈良県を支えている。

行基は、河内国大鳥郡(現・大阪府堺市)に生まれ、父は^{こしのさいち}高志才智、母は^{はちだのこにひめ}蜂田古爾比売で、高志氏は百済から渡来した王仁^{わに}氏の子孫でした。当時の日本では、朝鮮半島の百済からの渡来人は、中国大陸の優れた技術や文化を日本へもたらしており、行基の土木技術は渡来人をその出自に持っていたことと密接に関わっていたのではないのでしょうか。

その行基が近江国へやって来た時に、度重なる琵琶湖の洪水に苦しむ琵琶湖周辺の農民たちは行基へなんとかしてほしいと懇願します。行基は琵琶湖周辺の地形を観察し、瀬田川に大きく張り出していた大日山が瀬田川の流れを悪くし、琵琶湖を氾濫させている元凶だと見抜きます。そして大日山の西端を切り取ろうとしましたが、下流域の洪水が悪化する可能性があることに気づき計画を断念しました。このときに山頂に大日如来をまつり、この山を削れば祟りがある、との言い伝えを残しました。なお大日山の名称は、この故事に由来しています。

この時代に行基が瀬田川の流量改善の鍵が大日山の切り崩しにあると見抜き、同時に下流の洪水防止の鍵でもあることも看破していたとは流石と言うべきで、行基が単なる高僧ではなく、優れた土木工事技術者であったことを物語っています。

【江戸時代にも瀬田川の改修が試みられたが、その効果は限定的だった】

時代が下がり江戸時代に入っても、琵琶湖の洪水は近江国の人々を苦しめてきました。この状況を見て、江戸幕府は河村瑞賢へ命じて、瀬田大橋から現在の瀬田川洗堰までの東岸を切り取って水の流れをよくさせましたが、大日山が削られることはありませんでした。

その後に寛政年間から天保年間にかけて、高島郡深溝村（現・滋賀県新旭町）の庄屋だった藤本太郎兵衛父子の努力により、自前の資金による瀬田川の本格的な川浚えがなされ、流れがよくなったものの、大洪水に対処できるほどのものではありませんでした。

その後は幕末の混乱期にかかり、瀬田川の改修が計画されることはありませんでしたが、近江の国の人々は琵琶湖沿岸のシジミ取りを名目として隠れて河底を掘るようになったそうです。そのような人々のささやかな努力を嘲笑うかのように、大日山は行基の時代から変わりなく瀬田川へ突出し、川の流れを阻害し続けていました。

【明治大阪大洪水と琵琶湖大水害から旧瀬田川洗堰（南郷洗堰）ができた】

明治18年（1885年）の明治大阪大洪水による大被害を契機として淀川治水対策の重要性が認識されていたところへ、明治29年（1896年）に琵琶湖大水害による琵琶湖沿岸の深刻な被害がもたらされ、これを受けて明治29年（1896年）に河川法が制定され、内務省が淀川河川改修計画「淀川改良工事」を決定しました。

「淀川改良工事」は、淀川放水路建設と旧瀬田川洗堰設置（南郷洗堰）を含む瀬田川改修を基幹とする淀川水系の上下流一貫の抜本的な洪水防止計画で、大阪平野も滋賀県も一体的に水害から守ろうとする画期的なものでした。

明治大阪大洪水では、死者・行方不明者81名、浸水被害面積は約15,142ヘクタール、当時の大阪府全体の世帯数の約20%となる72,509戸が最大で約4メートルも浸水し、家屋流失1,749戸、同損壊約15,000戸という甚大な被害が発生しました。琵琶湖大水害では琵琶湖の水位は基準値を3.76メートルも越え、被害は死者34名、浸水面積約14,800ヘクタール、

家屋の全壊・半壊・浸水67,000戸にのぼりました。淀川の下流の大阪平野と上流の琵琶湖で大水害が相次いで発生したことが、上下流の一体的な洪水防止対策の決定を後押ししました。

【瀬田川浚渫・大日山切崩・旧瀬田川洗堰がワンセットの瀬田川改修工事】

瀬田川浚渫と大日山切り崩しによる瀬田川の河川通水量の増加は、琵琶湖の水位を下げ、琵琶湖沿岸を洪水から守る一方で、下流の淀川のピーク水量を増大させて大阪平野を洪水の危険に晒します。そこで琵琶湖からの流出量を制限できる旧瀬田川洗堰を明治38年（1905年）に設置することにより、琵琶湖沿岸と大阪平野を同時に洪水から守ることが決定されました。

瀬田川の河床を掘り下げて川幅を広げると瀬田川からの流出量が増えて、平常時や渇水時の琵琶湖の水位が低下してしまいましたが、瀬田川洗堰がそれを防止し、琵琶湖の水位を自在に調節することができます。また、大雨の際の琵琶湖の水位上昇のピークは、下流の淀川の水位上昇のピークよりかなり遅くなるため、大雨の時は瀬田川洗堰を閉鎖し、雨が降り止んでからは洗堰を開くという洪水調節が行えるようになります。

瀬田川の河川改修は、明治33年（1900年）に工事が開始されました。瀬田川から下流への流出を妨げていたのは、大津市黒津地区で瀬田川へ突き出して瀬田川を狭くしていた大日山で、工事では大日山の西側をダイナマイトで爆砕するなどして瀬田川を拡幅し、川底を掘り下げて瀬田川の最大疎通能力をそれまでの毎秒50トンから毎秒200トンに拡大させました（図8）。

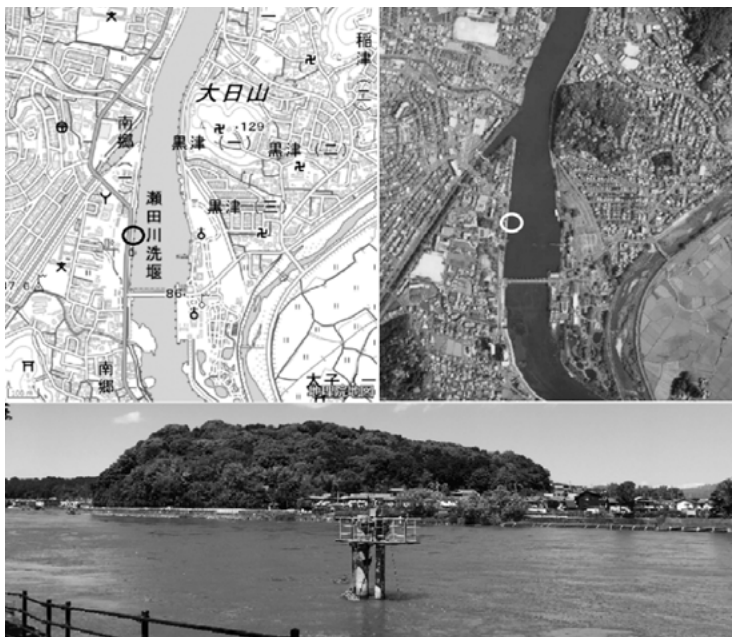


図8：上左側は大日山と瀬田川洗堰付近の地図（国土地理院地図）、上右側は航空写真（国土地理院航空写真）、下側は瀬田川の対岸から見た大日山（筆者撮影）で、その撮影ポイントを地図と航空写真上に○印を付した。瀬田川改修で西側が切り崩される以前の大日山は西側へ突き出し、大日山による狭隘部では瀬田川の最大疎通能力は毎秒50トンと少なく、大雨の時の琵琶湖の水位上昇の要因となってきた。現在の大日山は西側が削られて地図と航空写真では直線的となっており、写真では左端が急峻となっている。

瀬田川の大日山の狹隘部での工事前の毎秒50トンの最大疎通量は、京都市が現在琵琶湖疏水から取水する23.65トン（第一疏水が8.35トンで第二疏水が15.30トン）の約2倍に過ぎず、琵琶湖が如何に洪水に弱かったかがわかります。工事後に最大疎通量は毎秒200トンとなりましたが、琵琶湖の洪水を防止するにはなお不十分でした。そのため、その後にさらに疎通能力を増大させ、流量調節のために旧瀬田川洗堰（南郷洗堰）を建設することが計画されました。

明治35年（1902年）に旧瀬田川洗堰（南郷洗堰）の工事と更なる瀬田川の河川改修が開始され、明治38年（1905年）に完成しました。これにより瀬田川の最大疎通量は毎秒400トンとなり、流量をきめ細かく調節できるようになりました。総工費は625,000円（洗堰単体は252,000円）で、煉瓦と石で造られた最大疎通能力毎秒400トンの堰の開閉は国が管理することとなりました（図9）。

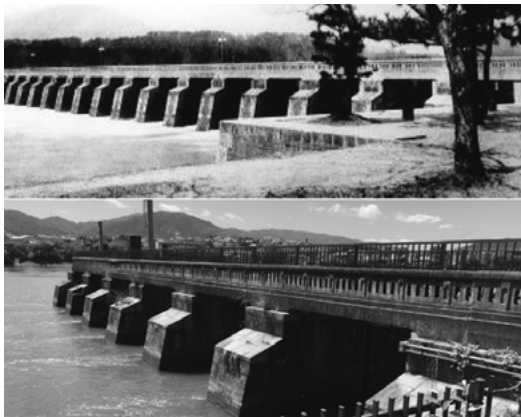


図9：上側は建設当時の旧瀬田川洗堰（南郷洗堰）（近畿地方整備局琵琶湖河川事務所「瀬田川洗堰」から）で下側はその現況（筆者撮影）。旧瀬田川洗堰（南郷洗堰）は総工費約252,000円で明治38年（1905年）に完成した。32個の幅12尺（約3.64メートル）の水門を有し、水門の柱には縦溝を設け、長さ14尺（約4.24メートル）、角8寸（約24センチ）の木桁を最大19本落とし込んで流量を調整した。木桁の落とし込みと抜取りは、内務省大阪土木出張所（現在の近畿地方整備局）からの電話指令に基づいて人力で行った。落とし込みは比較的容易に行えたが、抜き取りは木材が水を含み膨張して重くなりかなりの労力を要したそうである。現在はその東側の一部が土木学会選奨土木遺産として保存されている。

そして昭和36年（1961年）に在来堰の下流側にコンクリート製の電動可動堰を装備した新瀬田川洗堰が建設され、最大疎通能力600トンとなりました。新瀬田川洗堰ではマイナス100センチ以下の水位では正確な流量調節ができなかったため、琵琶湖総合開発で琵琶湖の利用可能水位がマイナス150センチへ拡大されたことから、マイナス150センチ以上の水位で流量調節が可能なバイパス水路が平成4年（1992年）に堰の東側に追加され、最大疎通能力は合わせて800トンとなっています（図10）。



図10：下流側から見た新瀬田川洗堰の全景（筆者撮影）。左手にある10門の水門が昭和36年（1961年）に総工費4億6,500万円で整備された新瀬田川洗堰で、その右手にある3門の水門が平成4年に（1992年）に整備されたバイパス水路。新瀬田川洗堰は全長173メートルの鉄筋コンクリート造りで、幅10.8メートルの2段式ローラーゲートを装備した水門を10門備え電動で開閉される。最大疎通能力は毎秒600トンで、その後に創設された低水位用のバイパス水路の毎秒200トンと合わせて800トンの疎通能力がある。バイパス水路の後方には明治の改修工事で西側が削りとられた大日山が見えている。

（第二話・その2へ続く）



七 仏 七 界

西国四十九薬師霊場巡りの旅 その六 前編

「光界」

上高野班 松下 匡孝

この暑さのため3ヶ月も空いてしまうと薬師霊場巡りをしていることを忘れかけていた…。高野山にある「璃界」の二寺を先に廻らねばならないのだが、予定していた23日は大雨予報のため断念し、先に「光界」のお寺をお参りすることにした。長いこと放置していた計画表を見直すと、どうも電車の時間がおかしいので夜遅くまでかかって計画を練り直す。

2024年9月24日

今日は兵庫県と大阪府の境辺りの四寺を廻る計画。原則通り最も遠方の観音霊場巡りでも訪れた兵庫県三田市の花山院からはじめる。8時発の地下鉄に乗る予定だが、息子も学校へ行くらしく妻も起きていて、昼ご飯におにぎり2個を持たせてくれた。予定より1本早い地下鉄に乗車できたが、JR京都駅からの新快速は予定通り8時14分の乗車となり、大阪駅で宝塚線新三田行に乗り換える。連休最終日だがそれほど混んでいるわけでもない。三田駅に9時37分に到着し、神姫バスで花山院へ向かう。気温は23℃とこの時間は涼しい。舗装はされているが参道の激坂ははっきりと覚えているから、今日はお袋が使っていたストックを拝借してきた。駅前のコンビニで水分と栄養ドリンクで激坂登坂に備える。バス停はないが参道入口にバスは止まってくれた。降車する客はおらず。覚悟を決めて参道に入ると、すぐに傾斜15～20%の坂が1kmも続く。速足で降りてくる人とあいさつを交わす。健脚だなぁ、というより20%の下り坂を止まれないんだろう。数台の車がエンジンの唸りをあげて追い越して行った。ところどころ坂の途中にベンチが用意されているので、何度か休憩しながら登ること25分、10時31分花山院山門に到着した。

第二十一番札所 真言宗 東光山 花山院菩提寺

脱帽一礼して山門をくぐり、石段を数段上って境内に入る。向かって左側が花山法皇殿、右側が薬師堂でその間にある香炉に灯した線香を3本立てる。薬師堂の扉は閉まっており、読経礼拝は滞りなく終了した。納経所では御宝印をいただく際、「合掌し、両手でお受け

取り下さい。」と言われる。貼り紙には500円と書いてあるし、弘川寺で9月からは500円と聞いていたのだが300円で良いと。なんか気が引けたので残りの200円は納経所を出てすぐの荒神堂に納めておいた。

花山院を出て今度は激坂を下っていくわけだが、毎度の事ながら下りは膝に負担がかかる。途中お地藏様が祀られているカーブにベンチがあり、休息を兼ねて妻がにぎってくれたおにぎりを1個を食べる。ベンチ横に“琴弾坂”と刻まれた石碑があった。三田市のホームページ¹⁾に「花山院と十二妃の墓」という項があり、「琴弾坂」の由縁が載っている。「花山天皇は19歳で皇位を去り仏門に入り法皇となり、三田の紫雲山で隠遁されたのでこのお寺を花山院と呼ぶようになった。京の女官11人が法皇を慕って花山院を訪れたが女人禁制の為、尼となって山のふもとに住んだ。尼達は坂を上ってこれ以上立ち入れない所で琴を弾いて法皇をおなぐさめしたことからこの坂を琴弾坂という。またこの地を尼寺と呼ぶようになった。」のだそうだ。エエ話だなあ。無事参道入口まで下りてきてバスを待ち、三田駅へ戻る。次の久安寺は大阪府池田市にあるのでJR宝塚駅まで戻って阪急電車に乗り換えて池田駅へ向かい、阪急バスに乗り換えて13時11分に久安寺に到着した。



第十八番札所 高野山真言宗 大澤山 久安寺

蕎麦屋さんがあるためか駐車場には多くの車が止まっている。拝観受付で入山料300円と納経代金300円を支払いバインダーを預けておく。やはり納経代は300円なのか…（帰ってから調べると10月1日から500円になるらしい）。コンクリート造りの薬師堂に入るとお薬師様の立像が祀られていた。パイプ椅子が7列ほど並んでいるがどなたもおられず。置いてある短い灯明

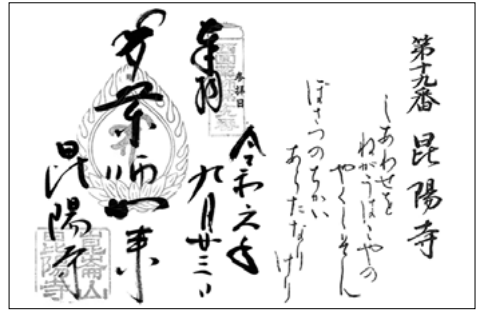


に火をつけ持参の線香3本に火を移した。読経を終え薬師堂を辞したあと、境内を見て回る。本堂は千手観音が祀られており御真言を唱え、御影堂前では御大師様の御真言を唱え礼拝。納経所に戻って御宝印をいただく。妻の小学校の担任だった先生が久安寺におられると昨日妻から聞いていたので、思い切って尋ねてみると丁度受付におられた。40年以上前だが妻と義妹のことを覚えておられたようで、しばらくお話をして久安寺を辞した。

さて久安寺からは阪急バスに乗って阪急池田駅に戻り、再び宝塚駅に向かう。宝塚駅からは阪神バスに乗って、次の毘陽寺を目指す。今日は宝塚が起点になっている。久安寺を出て約1時間半後の15時22分に伊丹市にある毘陽寺山門に着いた。

第十九番札所 高野山真言宗 崑崙山 昆陽寺

大きな山門を入ると正面にお薬師様がおられる瑠璃殿があった。1995年の阪神淡路大震災で倒壊したそうだが、お薬師様は無事だったそうである。扉は締まっており、お薬師様を見ることはできなかったが香炉に線香を立て作法通りにお参りをする。広い境内の東奥に納経所と書かれている家があった。開き戸を開けると灯りは付いておらず、奥に進むとガラス窓で仕切られた受付は暗い。「すみません。」と声をかけると灯りがついて奥から男性が出てこられた。受付は応接間のようにピアノやテレビが置いてあった。バインダーを見せて御宝印をいただく。



今日最後の東光寺は西宮市の^{もんどうくじん}門戸厄神にあるので阪神バスで阪急武庫之荘駅に向かう。武庫之荘駅から西宮北口駅で乗り換えて門戸厄神駅に着いたのは16時30分だった。門戸厄神は聞いたことはあるがどんな神社なのかよく知らない。東光寺は駅から徒歩10分ぐらいなので近くにあるはずでスマホのマップを起動して道案内を乞うているのだが、東西南北が解らなくなり、ぐるぐる同じところを行ったり来たり。思い切って迷ってる範囲から外れるとマップも正確に指示してくれるだろうと思い、北に向かう。迷っていた範囲を外れたことで自分の位置が把握でき、このまま北へ向かう。指示通り歩いていくと、どうやら門戸厄神へ向かっているようだ。そのうち「門戸厄神 東光寺」と書かれている案内看板を見つけ、門戸厄神＝東光寺であることによりやく気付く。門戸厄神は神社ではなかったのだ。坂道を登って突き当りに「門戸厄神」の石碑があり右手に山門が見えた。

第二十番札所 高野山真言宗 東光寺

16時45分、東光寺山門をくぐる。境内には多くの御堂があり、薬師堂がどこにあるのかわからず10分ほどウロウロして表門にある境内案内図を発見し、ようやく薬師堂にたどり着いた。薬師堂には桐紋が描かれた紫の垂れ幕がかけられており門扉は閉まっている。納経所で御宝印をいただいたあと、厄年だし階段を下りて不動明王をお参りをしておいた。



門戸厄神駅から阪急電車を乗り継いで烏丸駅に帰ってきたのは、18時30分だった。大腿が痛い。花山院をはじめに参拝しておいてよかった。

1) 三田市ホームページ

https://www.city.sanda.lg.jp/soshiki/15/gyomu/rekishi_bunkazai/minwa/1916.html

その六後編に続く

編 集 後 記

啓蟄です。二十四節気の中で最も私が好きな、心温まる節気です。現代の暦では3月5日から19日ごろを指し、土中で冬ごもりしていた虫たちが動き出す、生命のありがたさを感じる節気です。さらに詳しく七十二候に分類すると、初候の蟄虫啓戸（すごもりむしとをひらく）、次候の桃始笑（ももはじめてさく）、末候の菜虫化蝶（なむしちょうとなる）に分類されるのだそうです。いずれもなんと美しい気候の移り変わりの表現でしょう。

3月の人間世界は人事異動や各種制度変更でせわしくなく、果ては例年犯罪が増加に転じる、という統計（警察庁）まであるそうです。暖かくなり悪人もうごめきだすのでしょうか。

忙しさの合間にも、左京の豊かな自然を感じ、木々の小さな芽吹きや土のぬくもりを感じて心と身体をリセットする習慣をつけたいと思います。会員の皆様も、体調を崩しやすいこの時期、どうぞご自身をおいといください。

医報担当 兵庫美砂子

ホームページコーナー

URL <https://www.sakyo.kyoto.med.or.jp>

左京医師会では、ホームページを開設しております。皆様のアクセスをお待ちしております。また会員メーリングリストの運営を行っていますので、参加ご希望の方は医師会事務所までご連絡ください。

情報広報委員会

左京医報投稿のお願い

原稿締切 毎月 15 日
発 行 翌月初旬(合併号はこの限りではありません)
内 容 随筆・感想文・旅行記などを募集しております。また、表紙に絵画・書・写真などを左京医報へ掲載していただける先生がおられましたら、お気軽に事務所か兵庫美砂子までご連絡をお願いします。

左京医報 2025 年 3 月号(707 号)

発行日 2025 年（令和 7 年）3 月 1 日
発行所 一般社団法人 左 京 医 師 会
京都市左京区岩倉大鷲町422番地
電 話 (075) 701-1500
FAX (075) 701-1751
E-mail info@sakyo.kyoto.med.or.jp

発行人 塩 見 聡 史
編集人 兵 庫 美砂子
印刷所 (株)こだま印刷所
電 話 (075) 841-0052
FAX (075) 811-7873
E-mail mail@kodamap.co.jp